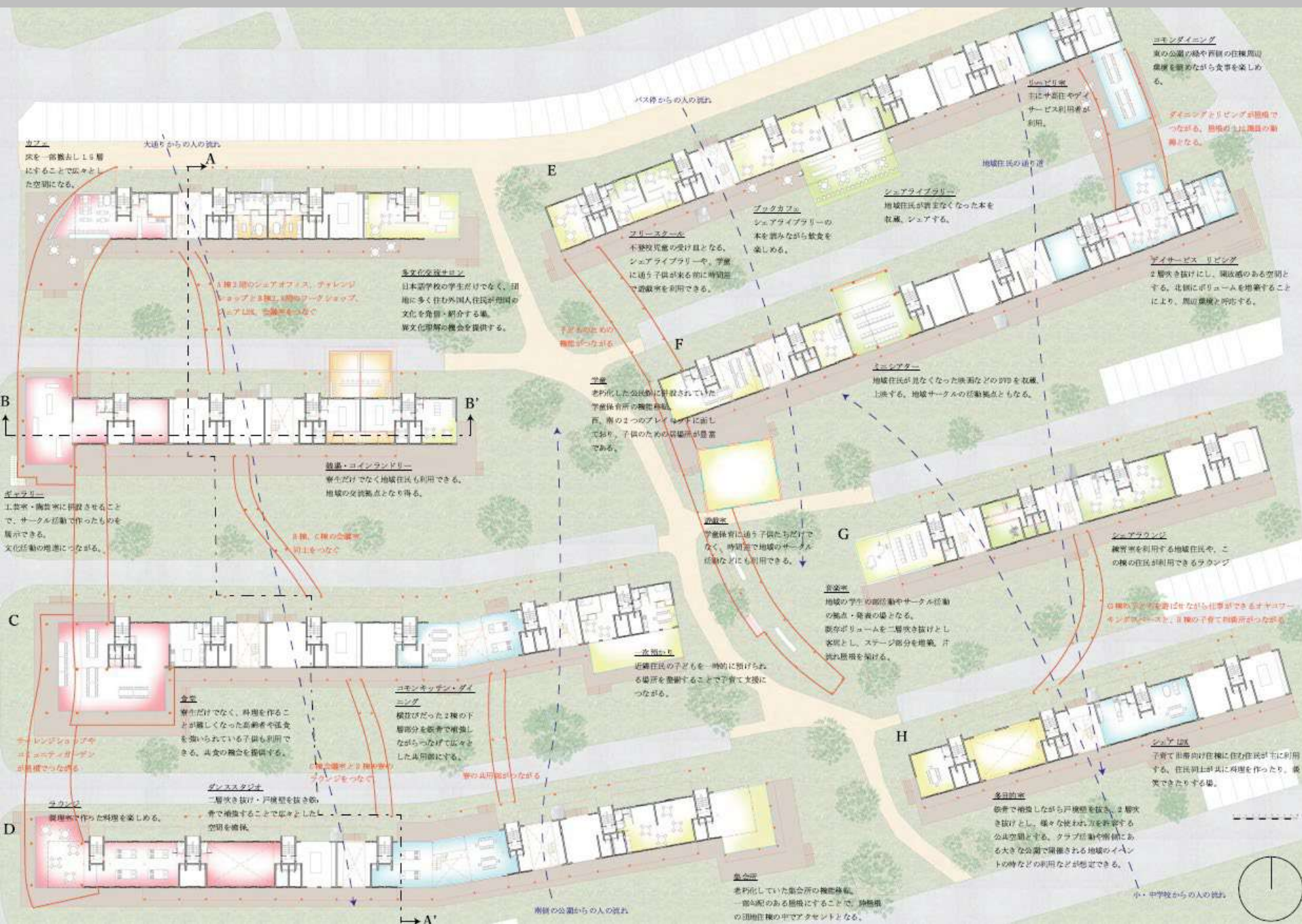


—多文化共生と地域連携による団地の新たな価値創造—



01.問題提起

日本の高度経済成長期に建てられた多くの団地で起きていること

長年の問題

住民の減少、少子高齢化、建物の老朽化、
それらによる解体や建て替え

+

近年顕在化してきている問題

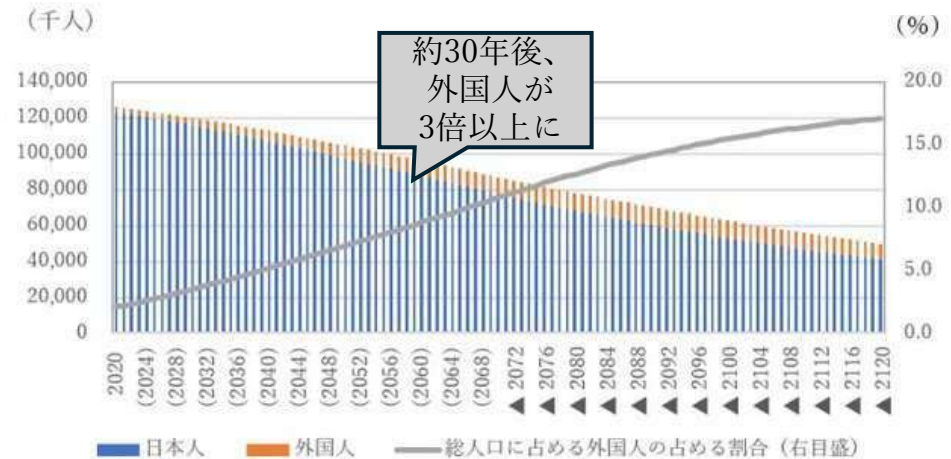
外国人住民の入居増加、
それによる生活トラブル



少子高齢化が進み、外国人住民が比較的多く暮らす団地は、近い将来の日本社会を象徴する縮図
互いの文化を尊重しながら共生できる地域コミュニティを形成することが重要

多文化共生を軸とした団地の再生を提案する

日本人と外国人の人口推計値



(注) 「出生中位・死亡中位」ケースの数値で、2021-2070 は基本推計、2071-2120 は長期参考推計に基づく。

(データ出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」

02.敷地：千葉県八千代市 村上団地

1976年に入居が開始されたUR賃貸住宅団地。成田空港から車で30分、京成本線勝田台駅からバスで約5分の距離に位置。

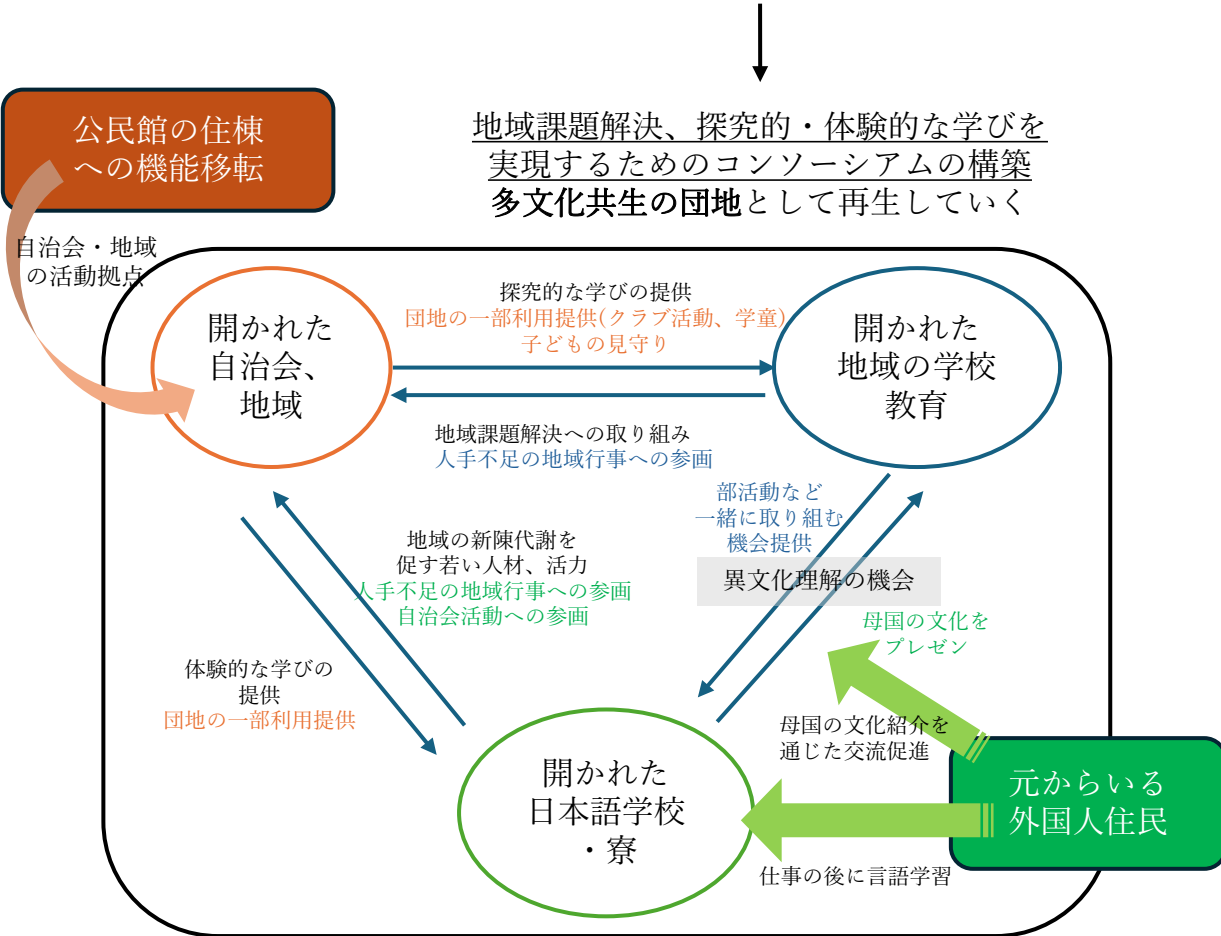
問題点

- ・ 少子高齢化の更なる進行(年少人口4%以下)
- ・ 人口減少(30年後、50%減)
- ・ 外国人住民の増加に対する受け入れ態勢不完全(外国人住民の割合は10%以上)

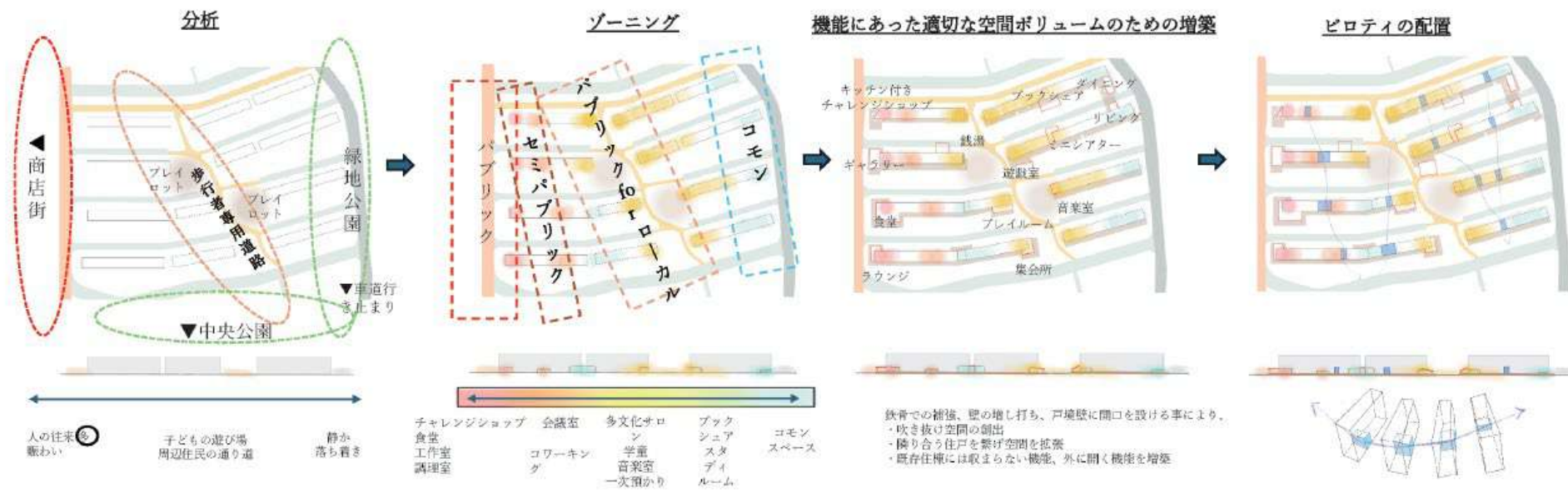
- ・ 公民館の稼働率低下(41%)と建物の老朽化
- ・ 商店街の活気低下
- ・ 地域行事の担い手不足

敷地周辺の特徴

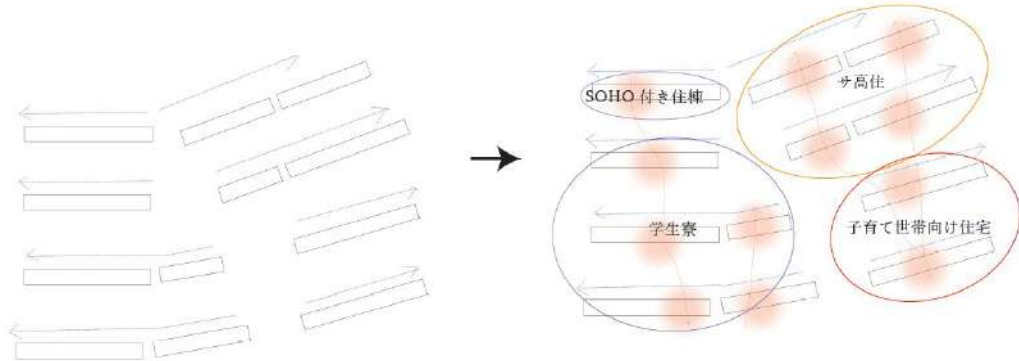
- ・ 学校が多い(1km圏内に6校)
- ・ 日本語学校が2024年に開校
- ・ 自然豊かで公園が多い



03.設計手法



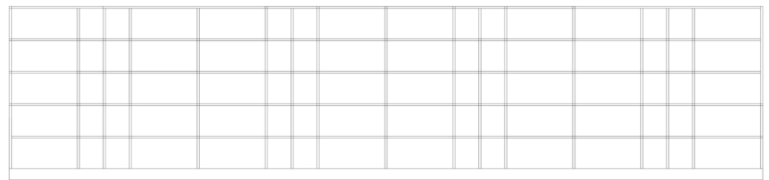
棟同士の関係性



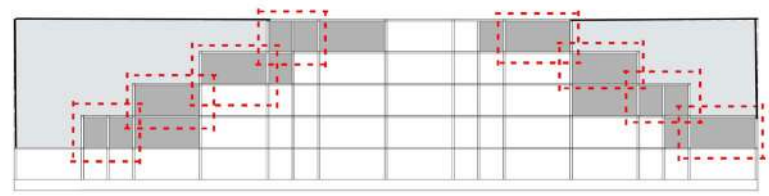
「川の字型配置」
「壁式構造」
「長手方向の強い動線軸」
関係性の希薄

ピロティや連続する空間の介在
棟同士の関係性が徐々に築かれる

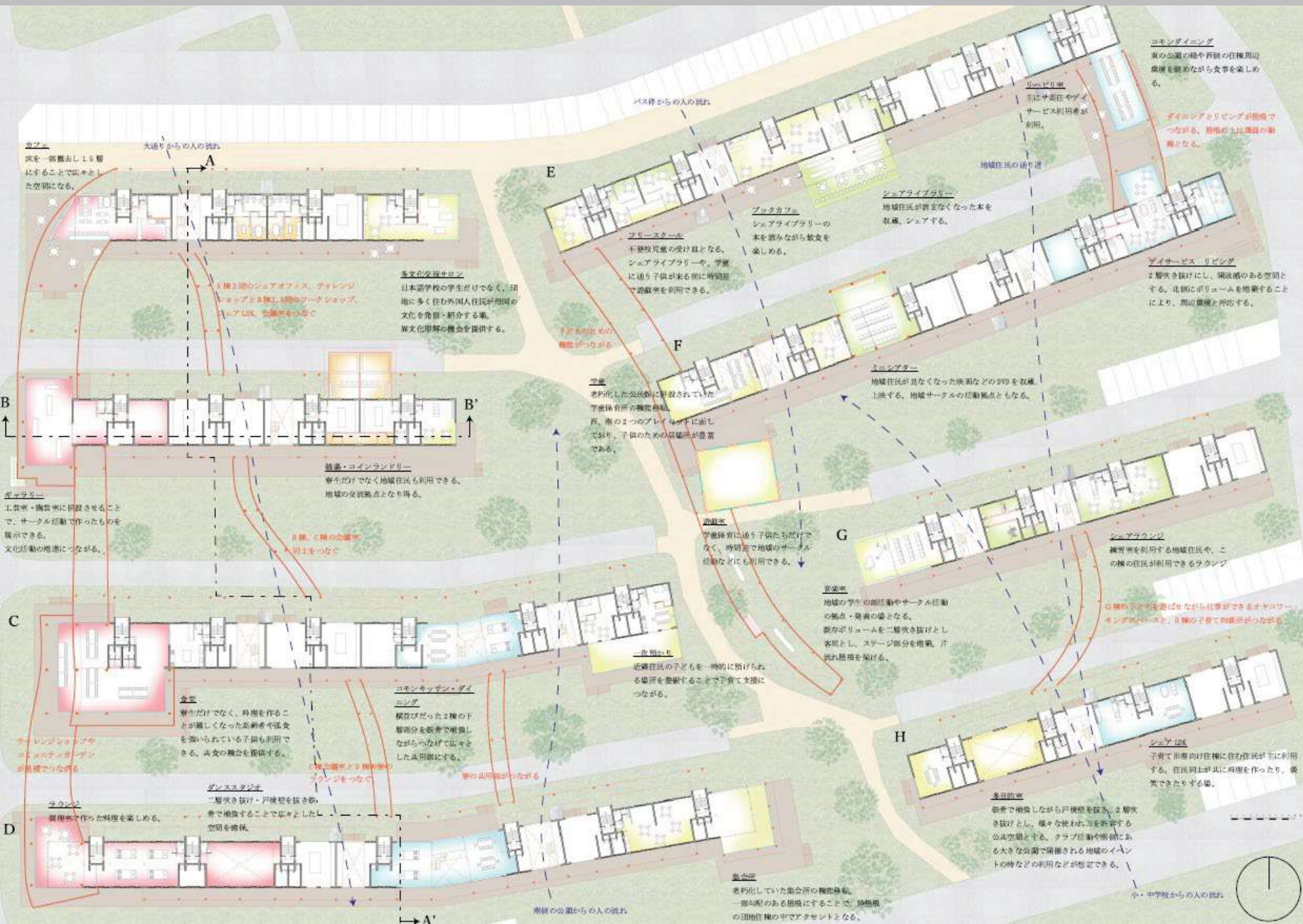
段階的減築



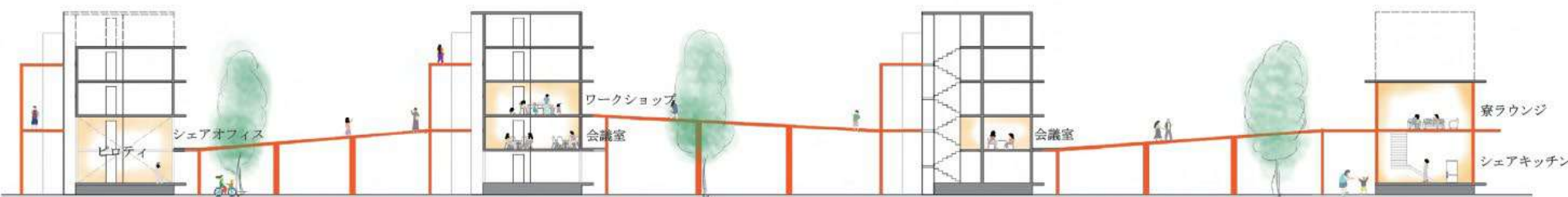
段の部分は今後の減築に備え、
柔軟な使い方を許容する空間になる
ex. クラブハウスや仕事場、アトリエ、小さなお店など
戸境壁に一部開口を設ければ住戸を拡張できる



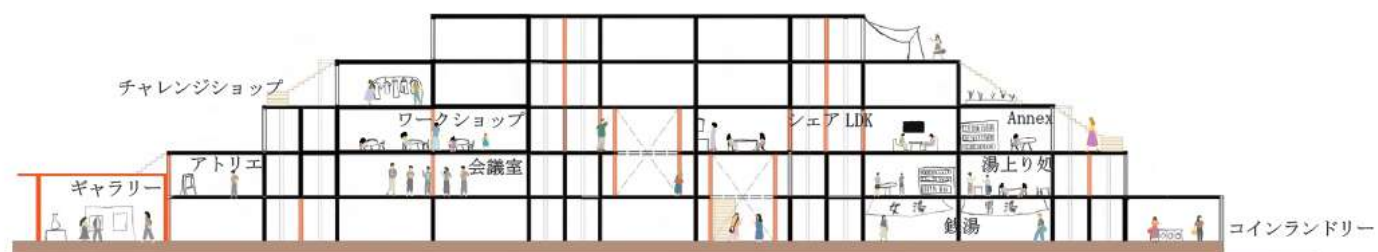
04.平面図



05.断面図



A-A' 断面図



B-B' 断面図

06.模型写真・パース

